

早川南校 の施設

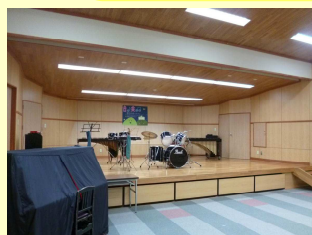


曲線と直線の融合



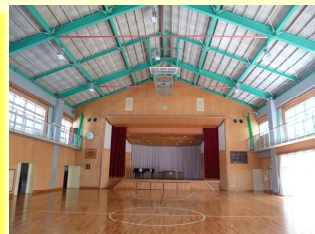
本校の玄関は広いスペースが確保され、一部畳が敷いてあります。玄関ホールを右に進むと、1階の廊下となっていて、奥は1・2年生の教室になっています。2階に続く広い階段があり、階段上のロビー天井は吹き抜けになっていて、大きな窓からはやさしい光がふりそそぎます。ミニ集会など、この玄関スペースを利用して行うこともあります。

2階の西側はたっぷりの明るさを確保した図書室となっています。窓を曲線にし、あたたかい日差しと緑を取り入れています。窓の外に目を移すと、早川の自然を存分に望むことができます。本校の蔵書は、約5,000冊で、とても多くの図書が揃っています。子どもたちは、思い思いに、目的の本を選んで、読書をたくさんしています。



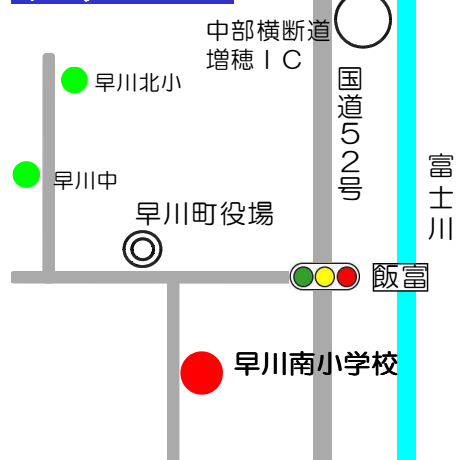
ここは、本校でも一番に自慢できる「泉ホール」です。指揮者の小泉和裕さんが設計に携わられました。「泉ホール」の名前の由来になっています。普通の学校の音楽室とは全く違った造りとなっていて、音響的にもとても優れています。本校の吹奏楽活動の拠点でもあり、ここで練習をしています。早川町の文化の高さを象徴しています。

ここは、体育館です。普通の学校では別棟で体育館がつけられていることが多いのですが、本校では、校舎の続きに建てられています。採光や換気に優れており、明るく使いやすく造られています。また、玄関が独立してあるため、夜間は社会体育などでも利用されています。奥のステージには「借景」といって窓がくり抜かれ、春木川が望めます。



校舎のあちこちに、このような絵画が掛けられています。この絵は、階段を上ったところ掛けられている、ピカソの絵「少年」です。他にも、峡南地区にゆかりのある画家の絵もたくさん飾られています。各階の中央には、「ちっちゃな図書館」「ちっちゃな美術館」などのコーナーが設けられていて、子どもたちの「憩い」の場となっています。

アクセス



学校データ

※学校見学はいつでも受け入れOKです！

- 学校教育目標
かしくく およく なかよく たくましく
- 主な沿革
S43. 4 本建小と五箇小を統合し早川南小となる
S43.12 校歌・校章を制定する
S58. 4 硯島小と統合する
H 8. 4 新校舎建築着工（H9.3～新校舎完成）
- 所在地
山梨県南巨摩郡早川町高住574番地
TEL0556-20-5015 FAX0556-20-5004
- 児童数
平成27年1月現在 21名
- 南小HP
<http://www.hayakawa-minamisho.ed.jp/>
- Mail
ecole-31@hayakawa-minamisho.ed.jp

日本一の自然にかこまれて、
豊かな学びと吹奏楽が伝統の学校



早川南小学校



校訓 和協進取

早川町立早川南小学校は、昭和43年度に本建(もとだて)小学校と五箇(ごか)小学校が統合して誕生した学校です。その後、昭和58年に硯島(すずりしま)小学校が統合されました。平成26年度現在で、47年目を迎えています。

早川南小では、子どもたちは毎日楽しく勉強しています。みんなが仲がよいです。1年生から6年生までが、一緒になって遊びます。校庭でサッカーもします。読書もたくさんします。いじめなんか全然ありません。また歴史と伝統のある「吹奏楽活動」を、もう40年以上にわたって行っています。全校の児童と先生と一緒に、楽器を演奏しています。

ぜひ一度、早川南小を訪問していただき、学校の良さを感じてください。全校一同、心からお待ちしております。



早川南小学校の教育

少人数教育の充実



■豊かな体験活動ができます！

本校の1学年の人数は、1人から5人と非常に少ない児童数です。しかし、先生が子どもたちと向き合う時間はとても多くなります。一人一人のつまずきに応じた指導ができます。理科の実験でも、実際に実験をやってみる時間は、一人一人にたっぷりと保障されます。学校の勉強は、机の上だけの学習であってなりません。早川南小では、地域の歴史や自然を生かした体験活動が豊かに授業の中に取り入れられ、その結果「確かな学力」が身につきます。

■コミュニケーション能力が身につきます！

少人数の学校では、コミュニケーションの力が育たないのではないかと考えがちです。しかし実際はその逆なのです。子どもたちの数が少ない分、授業中や集会時などにおいて、一人一人の思いや伝えたいことを表現できる時間が確保されます。早川南小の子どもたちはみんな堂々と自分の考えを発表することができます。合唱の質も高いです。また、相手の話をじっくり聞くことができます。早川南小の環境の中では、子どもたち相互の言葉によるやりとりが豊かになります。



■社会性や協調性が育ちます！

中・大規模校などの学校では、どうしても同学年集団による活動が中心となります。しかし、小規模校では異年齢の集団による活動が大半を占めます。早川南小の子どもたちは、休み時間に、1年生から6年生までが一緒になって遊びます。異年齢集団とは、将来の大人社会の縮図であり、当然能力差も存在します。この能力の差が、人として最も大切な「思いやり」や「やさしさ」などの資質を養います。本校の子どもたちは、転校生など、新しい友だちに対して、やさしく接し迎え入れることができます。

■多様な考え方・思考する力が身につきます！

少人数のクラスでは、多様な考え方に乏しい授業になってしまう？・・・これは逆です。一人がいくつもの考え方を示して学び合いを進めていきます。「他に考え方はあるかな？」「他の方法はないだろうか？」など、「言語活動」を充実させながら豊かな思考をしていくこととなります。算数を例にすると、台形の面積を求める問題では、授業の中で補助線を引いたり、上下に切って向きをかえたりなど、一人がたくさんの考え方を示すことができ、その結果学び合いの活動も活発になります。



読書活動の充実

■「図書紹介」や「読書のすすめ」

早川南小学校では、子どもたちの読書をとっても大切にしています。図書室は、校舎の一番日当たりのよい場所にあり、子どもたちは、休み時間や放課後に図書室に行って、よく本を読んでいます。調べ学習にもよく活用していて、司書の先生からアドバイスをもらっています。また、各学年の子どもたちや司書の先生による図書紹介や職員による「読書のすすめ」の時間があり、子どもたちは豊かに読書の幅を広げています。



topic



■春木川での体験

学校の東側には「春木川」が流れています。7月には、「川での安全な遊び方」について学習しました。子どもたちは、我を忘れて、夢中になって春木川と格闘していました。川の水の冷たさや石ころの感触、仲間との触れ合いなどたくさんのことを学んでいます。

吹奏楽活動を通じた人間づくり



発足当時の南小吹奏楽団の演奏（山梨県民会館）

■歴史と伝統の吹奏楽活動

本校では、「吹奏楽活動」を40年以上にわたり続けてきています。毎週火・木・金曜日の放課後に練習をしています。低学年の児童は、踊りのパフォーマンスを、3年生以上になると実際に楽器を担当して演奏をします。「早川町山菜祭り」や「山梨県小学校バンドフェスティバル」、校内の「ありがとうコンサート」が大きな発表の場となっています。また、学校職員も全員演奏に加わり、子どもたちと一緒に演奏をしています。本校では、この吹奏楽活動を通して、よりよい音楽を追求するとともに、協調性や責任感を養っています。山村留学等で新しく仲間になった児童も、すぐに楽器に慣れ、みんな一緒に吹奏楽活動を楽しんでいます。



国民文化祭オープニングコンサート（河口湖ステラシアター）



山梨県小学校バンドフェスティバル（コラニー文化ホール）

topic

地域の教育資源を活用した教育

■実体験を重視した教育

早川南小学校の学区の中には、学校教育に必要な教育素材がたくさんあります。雨畑硯で有名な雨畑地区や信仰の山「七面山」、講中宿として栄えた赤沢地区などがあります。その他にもお茶の栽培やなめこづくり、林業や発電所など教育素材が豊富にあります。子どもたちは、早川の歴史や文化、産業などに触れ、上流文化圏研究所などからの協力も得ながら、早川でしかできない学習プログラムの中で、実体験を重視した学習を進めています。



野鳥の観察



薬袋地区のお茶摘み体験



赤沢の紹介ビデオ撮影



七面山への登山

■カイコの飼育



ここ2年ほど南小では、カイコを飼育してきました。職員が桑の葉を持ち寄り、子どもたちが毎日世話をしました。カイコが繭をつくるようすをペットボトルを使って観察したり、カイコの吐く糸で綿100%のうちわをつくらしたりしました。ここ早川でも、以前はたくさんの家で蚕を飼い、収入を得ていたということです。

ICT機器を活用した教育

■タブレット端末の導入

本校では、平成26年度にタブレット端末が6台導入されました。外国語活動ではお気に入りの国の紹介をプレゼンして発表したり、理科では観察や実験したことを図や写真を使いながらまとめています。国語では文章や図などを提示して、書く活動を補助する活動に利用しています。

タブレット端末は、子どもたちの学びの可能性を広げていくツールとして、これからも授業の中に積極的に取り入れていく予定です。

